

あおもり創生☆News No.6



◆ topics ◆

- 想いは実現する！ ～黒石市のまちづくりpartⅡ～
- 令和3年度 第2回 産官学情報交換会が開催されました
- 企業と学生が協働で創り上げた「オンラインインターンシッププログラム」
- 令和2年国勢調査の結果が判明。さて青森県の人口は

◆想いは実現する！～黒石市のまちづくりpartⅡ～◆

前号で紹介した黒石市「中町こみせ通り」復活の立役者、中田和道(なかつたかずみち)さんに、まちづくりに対する想いを伺いました。



弘前大学卒。黒石市職員であり、地元商店街組合の…

中田さんが黒石市の行政職員として採用されたのは、東日本大震災発生直後の2011年4月のこと。

すぐに姉妹都市の岩手県宮古市に仮設住宅の受付係として派遣されるも、甚大な被害を目の当たりに、自身の無力さを痛感することに。

しかし、ボランティアとして再び宮古市に赴き、あなたのおかげで仮設住宅に入居できたと、ある家族から声をかけられます。

自分の行動が誰かの役に立っているという手ごたえが、市のイベントや団体の活動へ中田さんを駆り立てる原動力に。

「学生時代に経験した社会調査実習も、今思えば人とのつながりの面白さに気付くきっかけだった」。



たくさん人で賑わう地酒まつりの一コマ。

そんな中、青森県庁に出向することに。

県行政にやりがいを感じながらも、「地元の人々の顔を見て、地元に関わる仕事がしたい」。

黒石市への想いが募る中田さん。

一年後、市の商工観光課に戻ってからは、こみせ通りに県内の酒蔵を集めた地酒まつりを企画し、大成功。

その熱意ある行動が商店街の人たちを動かし、イベント第2弾の主役は行政の手から商店街へ引き継がれることに。

まさに地域と行政が連携したまちづくりの第一歩となりました。



地域と行政が連携して創業したこみせの宿「ホテル...



2F客室前通路。



現在稼働中のプロジェクト「circleこみせ」。

「地元の人にも観光で来る人にも、こみせが人とまちを繋ぐ場所であってほしい。

ワクワクがたくさん詰まったまちにしたい」。

そう語る中田さんのビジョンが画になって現れた気がします。

◆令和3年度 第2回 産官学情報交換会が開催されました◆

青森県内の高等教育機関・自治体・経済団体等で構成する「産官学情報交換会」で、学生の県内定着や県内企業の採用力向上に係る取組等について情報交換。

今回は感染症拡大の最中、オンラインで開催されました(令和4年2月28日)。

●県では●●

引続き「本県の価値・魅力」の発信による、若者の県内定着・還流を促進するための取組や、学生と県内企業の相互理解促進を図るための取組等を進める。

令和4年度に「あおり若者定着奨学金返還支援制度」及び「企業の若手人財確保・定着支援補助金」を新設。

●県内経済界では●●

コロナ禍においても人財不足、人財育成を課題に挙げる企業が多い。

県内中小企業の令和4年3月採用計画をみると、「ある」は前年度に比べ若干減。一方「ない」が前年度より若干増。

採用計画人数のうち、大卒は1.71人で、全国の2.20人を下回った。



「学生による就職座談会」(弘前大学地域創生推進室 令和4年1月26日)の結果が報告され、就職先の選定に当たって、就活で行ったこと・参考になったこと、県内企業と県外企業との違いなど、就職に関する学生の考えが紹介されました。

また「学生と企業人の本音トーク」(青森放送番組企画)など、学生が地元就職について議論できる場を多く作っていくことが重要。

県内企業のオンラインを使用した取組が充実すれば、企業情報を早く得られるようになり地元定着に貢献できるのではないか、など活発な意見交換が行われました。

◆企業と学生が協働で創り上げた「オンラインインターンシッププログラム」◆

県では、県内企業のインターンシップのデジタル化を推進するため、県内企業・学生へのアンケート調査や全国の成功事例を基にして、オンラインによるインターンシッププログラムの構築に着手。

業務運営は株式会社BOLBOPに委託、県内企業3社と学生延べ11人が参加しました。

まずは企業・学生が協働しながら、事業者独自の魅力的なプログラムについて検討し、設計。

その後、就活中の学生を募集し、プログラムの有効性を検証。

●そして令和4年3月10日の成果報告会では・・・

山口郁彦 県労政・能力開発課長があいさつ。

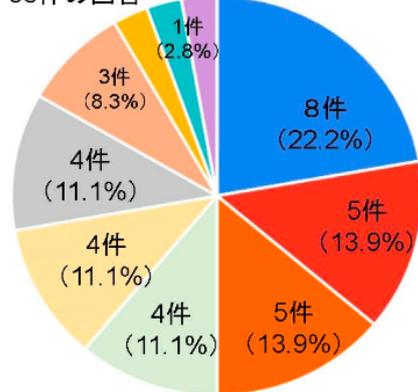
感染症拡大により、生活やビジネスの様々な場においてデジタル化が急速に進展しており、企業の採用活動においてもインターネットの活用を一層進めることが重要。

今回の成果が企業の人材確保につながれば、と。



・オンラインインターンシップの中で取り組んでいることを教えてください

36件の回答



- 会社説明 8件 (22.2%)
- 業界研究 5件 (13.9%)
- アイスブレイク 5件 (13.9%)
- 実際の仕事のシミュレーション体験 4件 (11.1%)
- ディスカッション 4件 (11.1%)
- 参加学生と社員との座談会・交流会 4件 (11.1%)
- 事業課題の解決 3件 (8.3%)
- 会社・工場見学(中継または動画) 1件 (2.8%)
- チームビルディング 1件 (2.8%)
- 就活支援 1件 (2.8%)

- ・通常のインターンとそこまで実施内容に大差はない
- ・中継での会社工場見学は難易度が高い可能性
- ・体を使うようなチームビルディングは難しい

ある参加企業は、「インターンシップをやったことがないし、オンラインはハードルが高く感じたが、心配したほどではなかった。

学生の熱い思いや当社に対する外部の眼というものを知ることができたのは収穫の一つ。

一方、有能なファシリテーターを育てる必要性を痛感した」。

◆学生向けアンケートの結果

・インターンシップに申し込み際に何を重視しましたか（複数回答可）



- ・企業とのコミュニケーションだけでなく、同じく就職活動に臨んでいる仲間との交流を求めている。
- ・単なる会社説明や、ちょっとした職場体験ではなく、実践的な業務へのチャレンジができるとうい
- ・日数や対面かどうかなどはあまり重要ではなく、プログラムの中身が重要である。

◆学生向けアンケートの結果

・オンラインインターンシップにおいて体験したプログラムの中で、最も満足度が高かったものを教えてください。



体験したプログラム	件数	割合
事業課題の解決	8	22.9%
会社説明	7	20.0%
実際の仕事のシミュレーション体験	6	17.1%
ディスカッション	5	14.3%
参加学生と社員との懇談会・交流会	5	14.3%
業界研究	2	5.7%
会社・工場見学（中絶又は動画）	1	2.9%
その他	1	2.9%
合計	35	

一方ある学生から、「対面とオンラインのインターンシップとで大差はない。

オンラインは県外に居ながらも参加できるし、他の学生と交流がしやすい」

というメリットについての言及が。

オンラインインターンシップへのニーズは一層高まるものと思われ、今後の進展に期待したいところです。

※本文中画像は、青森県庁ホームページ『令和3年度オンラインインターンシッププログラム構築支援業務成果報告会資料』より抜粋・転載させていただきました。

◆令和2年国勢調査の結果が判明。さて青森県の人口は◆

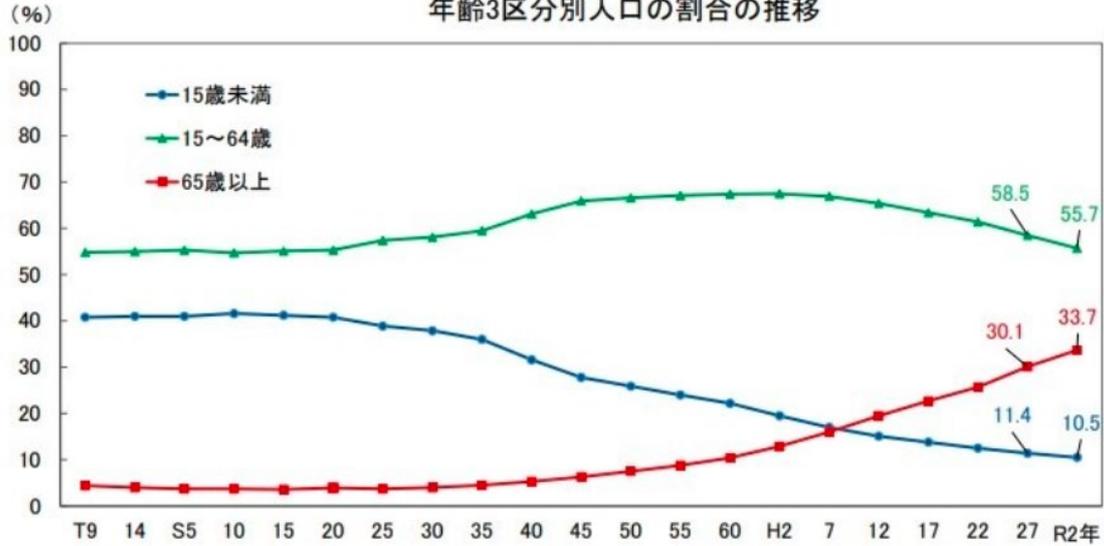
ここでは、県の公表資料等により、青森県の人口についておさらいしてみます。



令和2年10月1日現在の本県の人口は123万7,984人で、平成27年の130万8,265人と比べ7万281人(5.4%)減少。

第1次ベビーブーム（昭和22年～24年）直後の昭和25年国調の人口が128万2,867人ですから、やや下回ります。

年齢3区分別人口の割合の推移



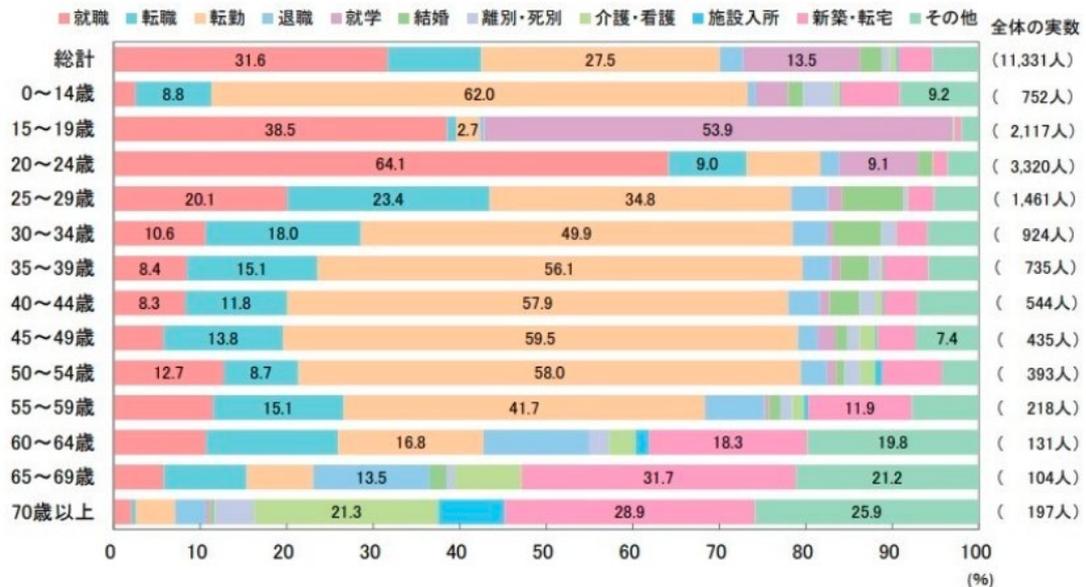
年齢3区分別では、15歳未満人口は13万259人(総人口の10.5%)、15~64歳人口は68万9,910人(同55.7%)。また65歳以上人口は41万7,815人(同33.7%)で、平成27年(総人口の30.1%)から5年間で高齢化がさらに進行。

次に、本県の人口動態を令和2年10月から令和3年9月の1年間でみてみます。

出生者数が6,589人、死亡者数が1万8,766人で、自然増減数は1万2,177人の減少。

また、県外からの転入者数が1万7,790人、県外への転出者数が2万2,292人で、社会増減数は4,502人の減少。

「県外への転出」の移動理由



統計データの検索画面と検索方法

データセット検索ページ
 HOME > データセット検索(何も入力せずにクリック)
データセットとは? データの集合体のことで、主に調査名や調査実施に年(期)単位で登録されています。データセット検索では、特定のキーワードを入力して検索したり、カテゴリを選んでデータの絞り込み検索ができます。

データセット検索 Search Result

キーワードを入力して検索

追加統計調査名を追加して検索

追加統計分類を追加して検索

統計データページ
 HOME > (統計データ)から調べたい項目をクリック
 調べたい項目や、調べたいデータセットグループ(統計調査名など)をクリックすると、該当するデータセットが新着順で表示されます。「**絞り込む**」をクリックすると、さらに該当するデータセットが表示されます。

絞り込む

クリック!

項目を選択すると...

ジャンプ!

検索する時のポイント
 データセット検索は、検索するキーワードから検索したり、分類を限定したり、様々な方向からカスタマイズして希望のデータセットを検出しやすいサービスです。絞り込んで特定のデータを探している方におすすめの検索方法です。絞り込みデータページでは、分類の検索やデータセットグループ(統計調査名など)がリスト形式で表示されるので、検索キーワードがなくても、クリックだけで簡単にデータを探ることができます。それでも見当のデータが見つからなければ、トップページ右上の「サイトの検索」に思い当たるキーワードを入力して検索しよう

閲覧画面とダウンロード機能

データの閲覧とダウンロード機能
 閲覧したいデータセットをクリックすると、登録されているデータ(リソース)とその情報が表示されます。

Web APIとは?
 Web API機能は、利用者の検索が保有するシステムの中からインターネットを通じてリクエストを送信していただくことで、データの検索も、プログラムへの取り込みができる機能です。APIはインターネット上で公開されているサービスです。

データセットの情報

一括ダウンロード可能!

公開されているデータ

ライセンス
 データを利用する際のライセンス(著作権者へ)を示しています。統計データの権利は、ほとんどが「DC BY」と表示されます。「印刷が認められていない、自由に転載していい」ということを意味しています。詳しくは「利用規約」をご覧ください。
<https://realtimecommons.jp/licenses>

APIビュー
 画面上でデータのイメージを見ることで、データの種類やダウンロードの時に、データの一部分が確認することができます。

ダウンロード
 データをまとめてダウンロードすることができます。データセット全体のデータをダウンロードする場合は、右上の「ダウンロード(全件)」をクリックするに便利です。

ダウンロード
 全件!

年	10月1日現在人口								
2017	1,000,000	990,000	980,000	970,000	960,000	950,000	940,000	930,000	920,000
2018	990,000	980,000	970,000	960,000	950,000	940,000	930,000	920,000	910,000
2019	980,000	970,000	960,000	950,000	940,000	930,000	920,000	910,000	900,000
2020	970,000	960,000	950,000	940,000	930,000	920,000	910,000	900,000	890,000
2021	960,000	950,000	940,000	930,000	920,000	910,000	900,000	890,000	880,000
2022	950,000	940,000	930,000	920,000	910,000	900,000	890,000	880,000	870,000

◆ 編集後記 ◆

令和2年10月の国勢調査の結果が判明し、青森県の人口が5年間で約7万人減少。

県内4番目の都市、十和田市(約6万人)の人口を上回る市が一つ消失したことに相当し、ショックを覚えました。

このような中でも、県内出身の若者が地元への想いを「まちづくり」という形で実現した事例に触れると、心強く感じます。

中田和道さんに続いて、あおり創生の一翼を担ってくださる方にたくさん出てきていただきたい。そう願っております(他人事では済ませないのでしょうか)。

それでは、令和4年度も「あおり創生☆News」をご愛読くださるようお願い申し上げます。

【編集責任者 弘前大学 社会連携課 須田 誠一】